

## 秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第4回会議 県南地区部会（概要）

### 1 日 時

令和4年9月2日（金） 15：05～16：00

### 2 場 所

秋田地方総合庁舎 総610会議室

### 3 出席者

○秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会委員 9名

○事務局（高校教育課） 4名

### 4 協 議

委員からの主な意見

- ・子どもの数は少なくなるのだから、それにあつた高校の配置を考えていかなければならない。いつまでには統合する、募集停止にするなどということをきちんと決めて実施していかなければ、いくら協議しても何も進まない。
- ・統合で、ある程度学校が少なくなれば、先生が足りないという学校に更に先生を配置できるようになるのではないか。やはり、七次計画の基準は見直すべきだと思った。
- ・第七次計画の終盤では、計画立案当初の予想よりも減少率が大きくなっているため、計画どおりには行かないような感じになっているのではないか。第七次計画で決めた基準の見直しは必要だと思う。
- ・数の理屈、費用対効果はその通りだと思うが、その考え方だけで統合を進めると、学校の数が減り、学科が限られてくる。そうすると、中学生の選択肢が狭まることになり、中学校側の指導は、「子どもたちにやりたいことよりもこの地域でやれること、通える範囲でできることを探みなさい」となってしまう。高校に進学する際の選択肢はできるだけあつた方がよい。
- ・理論上の話で基準を決めて、ある程度人数が確保できるから部活動が円滑にできるとなっても、通学に片道1時間半もかかる子どもが部活動を続けられるだろうか。それは、子どもが置かれている環境を考慮しない一方的な話ではないか。
- ・クラブチームという選択肢も出てきている。部活動のために高校があるのか。再編整備を考える際には、部活動の観点は切り離すべきである。あくまでも教育内容という観点で考えるべきである。

- 魅力ある学校づくりを考えたときに、外部人材を活用していくのも良いのではないかと感じた。就職を考えている子どもたちに対しては、仕事というものに触れる良い機会になる。
- 進学を中心校の規模は6学級程度を維持していくことは、中央地区を除いては非常に難しい。10年後には、6学級を維持できない状況になっていると思われる。
- 通級指導をどうするか、第八次計画では踏み込んでいく必要がある。